

「あれ、今どの病院にいるのかな？」

「医療機関のイメージカラーは？」という問いかけに、ほとんどの方が「白」と返答されることでしょう。白衣の「白」だけではなく、建物の外部や内部までもが「白」で統一されている施設が少なくありません。受付カウンターやドアなどに使用されているアクセントカラーがパステルカラー（白味がかった薄い色）だったり、木目の薄茶色や茶色だったり、患者さんを和ませる観葉植物の緑色が少々あつたりするぐらいでしょう。椅子（ソファ）やスリッパなどもベーシックカラー（白・グレー・茶色・黒）が基調で、色彩の少ないその空間は「ここは病院（診療所）です」とでも言いたげです。

どの病院もローラと水沢アリーののように色合いが似ているので、複数の病院に通院されているお年寄りが、「あれ、今どの病院にいるのかな??」と混乱してしまう……そういうお話を聞いたことがあります。世の中には素敵な色がたくさんあるのですから、もったいないような気がします。

「色」で空間を演出

病院で「白色」が使われる最大の理由は、「清潔感」です。➤

そして、身体に必要な全ての色の波長が届くので、「健康に良い」「健康を取り戻す」といった心理的効果も期待できるからです。でも、患者さんが受けるイメージはどうでしょうか？ 確かに、「清潔感」は伝わっているのですが、同時に多くの方が「不安」「緊張」「苦痛」「恐怖」といったマイナスイメージを受けています。これは、単に「白色」がもたらすイメージというより、「病院」＝「白色」がもたらすイメージといえるでしょう。とりわけ、病院嫌いの患者さんにとって、白い空間はマイナスイメージの増幅器になるので、より足を遠くかせてしまいます。どんな病氣も早期発見・早期治療が重要ですから、病院に足を運びやすくすることが大切です。つまり、患者さんが心地良いと思える空間を演出することが、予防や治療の前向き姿勢に結び付くのではないのでしょうか。

それでは、患者さんが来院したくなる空間を色で演出する具体例をご紹介します。

<壁紙>

- ① 全体をオフホワイトにし、腰高辺りにパステルカラーかトリムボーダー（帯状の装飾用壁紙）を配してアクセントを付ける。
- ② オフホワイトをベースにアクセントとして病院のイメージカラーを配する。
- ③ 全体をパステルカラーにする。



第4回 インテリアの「色」飾り

素敵な「色」を自在に操りましょう。

見島 恵美子

(株) Medisere (メディセレ) 社長
NPO法人医療心理学協会理事
MBAホルダー 認定薬剤師
スポーツファーマシスト カウンセラー



医療経営に「華」を活ける

～心理と色彩の応用華学～

- ① オフホワイトやパステルカラーを基調に、模様のあるものや布など素材に変化をもたらす。
- 注) ①②については、現在使用している壁紙の上に貼ればよいので、手軽にイメージを変えることができます。また、少量の強めの色は、個性を引き立たせます。

<椅子・ソファ>

- ① パステルカラー1色で統一するのではなく、少し強めの色を1脚はさむ。
 - ② 季節に合わせカバーやクッションの色を変える。(例：春⇒桜色、夏⇒水色、秋⇒淡いオレンジ色、冬⇒ワインレッド)
 - ③ 木を連想させる茶色や緑色（パステルカラーもしくは落ち着いたトーン）を採用する。
- 注) ①②については、面積が少ないので、思い切って大胆な色を採用すると個性が光ります。

患者に「色」を合わせる

全体的には、強い色より柔らかいパステルカラーがよろしいかと思えます。しかし、スリッパや壁を飾る絵画など面積負担が小さいものは、少し強めの色で個性をアピールしても、清潔感を害したり、気分を害したりすることはないでしょう。ただ、何か一つ

だけを変えるにしても、全てを変えるにしても、空間全体のバランスを考慮するべきです。例えば、同一色で濃淡を付けたり、暖色系または寒色系でまとめたり、ウッディー系でまとめたりすればバランスが崩れることはありません。

さらに、来院される患者さんの年齢層や疾患によって、コーディネートされるのも良いでしょう。婦人科は女性ホルモンの分泌を促すピンクを中心とした暖色系、小児科は成長ホルモンの分泌を促すオレンジ色や知的好奇心を刺激する黄色を中心とした暖色系など、同じ暖色系でもどの色を使うかで印象が全く異なります。心療内科や精神科など心を落ち着かせる効果を期待するのであれば寒色系になりますが、あえて明るい気分になってもらえるよう、リラックス効果も期待できるピンク系も良いでしょう。

「〇〇病院に行くと、受診前から病氣が良くなるような気がするよ」なんて、患者さんに言ってもらえたらうれしくなりますよね。治療や投薬だけではなく、居心地が良い空間も患者さんの健康回復に役立つのです。もちろん、医療スタッフのテンションも上がります。空間作りで色を操れば、患者数も採用数も操れるかもしれません。試してみる価値は十分あります。